

2021年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492000359	事業の開始年月日	平成30年4月1日
		指定年月日	平成30年3月1日
法人名	株式会社メディカルライフケア		
事業所名	グループホーム幸せふくろう万田		
所在地	( 254-0913 ) 神奈川県平塚市万田55-3		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和3年6月10日	評価結果 市町村受理日	令和3年8月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

新型コロナの収束の見通しが見つからないなか、行事やご家族の面会も現段階では中止となっています。ですが、施設内で今出来ることを職員と考え、利用者様に少しでも楽しんでもらえるよう、タブレットにて昔懐かしい音楽を流したり、映画や落語などインターネットを利用し鑑賞して頂いています。折り紙で毎月の季節の飾りつけを利用者様と一緒に作り飾っています。外に出られない分、季節を感じてもらえるようにと職員が調べ、利用者様と一緒に取り組んでおります。お楽しみランチやおやつレクも継続して行っています。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年7月31日	評価機関 評価決定日	令和3年8月5日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR「平塚」駅北口からバスで15分、「南河内」バス停で下車し徒歩数分の住宅街に位置します。周辺には小学校、商業施設、公園などがあります。2階建ての建物内には、同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。

<優れている点>

開設後3年が経ちましたが、施設内は掃除が行き届き、明るさと清潔感が維持できています。業務中にたてる音にも気を配り、職員は利用者が快適に暮らせるよう配慮しています。落ち着いた静かな環境は、職員の仕事へのモチベーション維持にも良い影響を与えています。また、今まで管理者と計画作成者がユニットリーダーを兼務していましたが、8月から各フロアに専任のリーダーを配置する運びとなり、新たにリーダーを選出しています。役割分担を確実にすることで、業務の効率化やケアの質の向上を図っています。今年5月の看取り経験も踏まえて、今後も新たな課題に職員のチームワークで立ち向かっていく思いを強くしています。

<工夫点>

コロナ禍により家族面会が中止となっている中、以前からのスタッフブログによる情報提供に加えて、Instagramの投稿も始めています。ブログよりも頻繁にアップしているので、家族から最近の様子がよくわかると好評を得ています。コロナ禍であっても、積極的に新しい取り組みを行っています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム幸せふくろう万田
ユニット名	なでしこ

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	メディカルライフケアも理念は地域社会に貢献することを意識して作られています。職員にも月1回のミーティングの前に唱和しています。行動指針の内容を把握し業務にも反映出来るよう取り組んでいます。	毎年3月のミーティングで職員同士が話し合い、次年度の理念を決めています。今年度は「チームケア」を事業所理念に掲げています。理念を日頃のケアの拠りどころとして、居心地の良い環境づくりと質の高いサービス提供を目指しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナで外部との関りは全くありません。職員は月に1回（第4日曜日）に隣の公園や道路の草むしりなど行い地域貢献に取り組んでいます。自治会にも加入しています。	コロナ禍でも、毎月の草むしりや自治会回覧板の受け渡しを継続しています。広報紙のふくろう通信を自治会長へ配付しています。近隣の人から贈られた、季節の花々や動物の折り紙作品に気持ちが和み、地域とのつながりを感じています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	インスタグラムなどに、GHで暮らしている方々が家事をしたり工作している姿をビデオや写真で投稿し認知症の方でも支援があれば出来ることがたくさんあることを伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	外部の方を呼んでの開催は出来ていません。併設の小多機と実施している状況。エリアの包括にはFAXなどで情報提供を行ったり、ふくろう通信を送り取り組みについて報告しています。	運営推進会議は、併設の小規模多機能型事業所と合同で隔月開催しています。直近では利用者の離設への対応を話し合い、両事業所の協力体制について確認しています。コロナ禍で外部メンバーの参加は望めませんが、会議録を届ける時もあります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいます。	直接の訪問は避けています。電話にて分からない事やコロナ対策についてなど情報を頂くようにしています。	保健師の訪問調査を依頼し、職員ロッカーの個別使用や消毒方法のアドバイスを受けて、コロナ対策の改善を図っています。マスクや消毒液などの必要物品の配布希望については、定期的に市役所へメールで伝えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	施設の施設は最小限にしています。3ヶ月に1回、身体拘束委員会をミーティング時に行っています。職員の対応を振り返りながら事例をもとに自分たちのケアを見直す機会を作っています。	離設した利用者の事例や禁止語、命令語などの言葉の選択について、事業所独自に資料を作り、内部研修やミーティングで時間をかけて検討しています。毎日のケアを通じて、職員の理解度を検証し、また、個別面談で話し合う機会もあります。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止法についての研修を社内にて実施し参加しています。学んだことを事業所の職員にも資料など回覧し伝えるようにしています。	「何が虐待にあたるのか」について、3ヶ月ごとの研修やミーティングで話し合っています。管理者とリーダーは、日頃のケアの様子から、職員の利用者対応を把握しています。不適切ケアがあった場合は、管理者への報告を周知しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見人がついている利用者様がありました。職員も関りながら役割を理解していました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に詳しく説明し分からない事疑問点など最後に確認をしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月1回のミーティングや職員向けのアンケートを実施している。会社に対しての意見や改善して欲しいことなど自由に記載できるアンケートです。年に2回職員との面談を実施しています。	LINEや電話により、家族の意見を聴取しています。コロナ禍で利用者との面会ができない状況が続いた際に、家族の要望に応え、リモート面会を始めています。直接会話ができない状況下、家族の気づきや何気ない一言を大切に対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に1回ご家族宛てにアンケートを行っています。率直なご意見など運営にあたり参考にさせて頂いています。	職員意見の実現として、本人希望に沿った有給休暇取得を目指して、シフトを調整しています。コロナ禍では年間行事の立案や実施が難しく、行事設定を会社に一任したいとの職員意見が受け入れられ、職員の負担軽減につながっています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	評価制度を実施しています。施設全体の目標と個々での目標をたて3ヶ月刻みで評価しています。面談を実施しながら必要に応じて勤務改善や業務内容など検討し働きやすい環境を作るように取り組んでいます。	職員評価には管理者の他、取締役や社長も加わっています。就業規則はキャビネットに保管され、常時職員が確認可能となっています。メディカルアシストを設置し、職員の健康管理に配慮しています。パワーハラスメント研修の実施を始めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修や資格の取得など積極的に自分のスキルやキャリアアップを目指してもらうよう会社全体で支援を行っています。	コロナ禍のためリモート研修を実施し、職員の参加率がアップしています。こんな研修に参加したいとの職員意見を反映したリクエスト研修を行い、モチベーションアップを図っています。ユニット間異動の際には、必ず実地研修を行っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	社外の職員との交流は控えています。社内でもリモートで研修を行いなるべく接触しないようにしています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前にご本人との面談を実施しています。本人がどんな生活を望んでいるのか可能な限りアセスメントをし情報収集を行っています。趣味や習慣などを把握し入所してからも継続出来る様取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	御家族とも面談を重ね、意向の確認を行っています。多くの情報を収集するためにも何度か面談を実施し、信頼関係を築くよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所を希望されても、アセスメントを行っている段階で見極め、違うサービスを提案することは結構あります。その方の状態や家族の色々な条件などで他のサービスの提案も視野にいれ話を聞くようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることは職員と一緒に取り組んでもらうようにしています。家事や調理の補助、物づくりなど出来ることを一緒に取り組んでいます。忙しい時は助けてもらっています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族にも出来ることは支援をしてもらっています。リモートでの面会や通院など家族にも協力をお願いしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの友人との関りはほとんどありません。外出もできないため馴染みの場所に行くこともできていません。	家族が孫の写真を持参したり、電話やビデオ通話による家族面談を行うなど、コロナ禍での関係継続を工夫しています。タブレットで懐かしの童謡、唱歌、歌謡曲に聞き入る時間を設けて、思い出の場所へ心の旅ができるようにサポートしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立することが悪いことではありません。その方が同生活したいかを優先しています。レクにも参加しなくては無理に参加を促しません。自分らしく過ごせるようにと考えています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了してからこちらから連絡を取ることはありません。ご家族からの相談があれば対応するようにはしています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を尊重できるよう取り組んでいます。個別のレクなども実施し集団でのレク以外の提案もその方に併せて行うようにしています。生活面でも縛らず自由に過ごしてもらっています。	居室で食事がしたい、遅くまで寝ていた、一人で入浴したいなど、本人の意向を尊重しています。縫いものをしてみたり、居室での一人カラオケを設置したり、職員と一緒に草むしりをしたり、日々の暮らしに一人ひとりの思いを反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメント表を職員へ回覧し情報を共有しコミュニケーションを図ります。会話の中で昔の思い出話など聞きながらその方の趣味趣向などを把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の利用者様との関りのなかでその方の生活スタイルを把握しています。心身の状態は変化しやすくその都度対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	常に課題分析し現状のケアのあり方をカンファレンスし検討しています。本人・家族からの意見を聞く事が難しく職員の意見を中心に検討してしまっています。	介護計画は通常6ヶ月ごとに更新しています。本人と関わった職員の報告や連絡帳の記載内容、医師からの情報などをもとに作成しています。本人の意向の把握が難しい場合は日頃の様子で判断し、家族へは電話やメール、ラインなどで確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録へ日々の様子など記録を行っています。状態の変化やヒヤリなど活用し共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	多機能に対応できていません。人間的に難しく、既存のサービスを実施することでやっとの状況です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源との協働は現在難しい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医が月に2回訪問する。必要に応じて本人・家族とのムンテラなど実施し今後の治療方針や意向を確認している。	協力医は月に2回訪問し、全員を診察しています。訪問歯科医は必要な人のみ診療しています。精神科、整形外科、皮膚科など、内科以外の医師に継続して受診する場合は、家族に対応を依頼しています。診断結果や薬の変更などは家族に報告しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設に看護師の配置はなく。往診の看護師と急変時や対応の指示などもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院側との情報交換は積極的に行っています。退院に向けての受入が可能かの判断も慎重に相談し決めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医と家族、施設とで相談し最良な判断が出来る様相談している。	終末期の対応については、契約時に署名する家族もいますが、その際には決断できず、後から話し合っ決めて決める場合もあります。昨年協力医などと連携をとりながら、看取りを行った実績があります。看取りに関する社内研修があり、毎年参加しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	社内研修にて技術研修を行っている。応急処置や救急救急要請など実践的な研修を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の訓練を実施し、水害時や地震などを想定し訓練している。	年に2回の災害訓練を計画し、次回は8月末に実施予定です。消防署の協力のもと通報訓練、初期消火、避難方法などを検討しています。利用者は屋外の駐車場への避難を考えています。備蓄品は施設内の倉庫に保管し、目録を作成して内容を確認しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	主導的な発言がある。尊重した対応が完璧に出来てはいないが、心がけ手は行っています。	利用者の意思を尊重し、職員が一方的に指示する発言をしないように注意しています。言葉かけ、呼びかけについては、性格や好みなどを考慮して、その人に適した対応を心がけています。個人に係る書類は、施錠できるキャビネットに保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常に傾聴し本人の気持ちを確認するように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	どうしても業務が中心になってしまうことがあります。一人ずつの意向を尊重することは難しいですが、なるべく気持ちに寄り添えるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類が古くなったり衣替えなど家族にも協力をもらい身だしなみをと戸の得るようにしています。本人の趣味趣向を配慮し家族へ対応をお願いしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎月リクエストランチでは利用者様の食べたいもの用意しています。おやつレクでは一緒に作り楽しんでいきます。	食材は日曜日以外、毎日配送されています。利用者は片付けや洗いのほか、調理や味付けなどを手伝うこともあります。2ヶ月に1度リクエストランチがあり、うな重や寿司、揚げたての天ぷらなど、食べたいものを出前や、職員の手作りで提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	先生の指示により食事量の調整や水分管理を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科の定期的な訪問でケアの指示をもらい実施しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要に応じておむつ、リハパンの提案を行っています。自宅ではリハパンを使用していた人がGHに入所し布パンに変更になった利用者さんもいます。	自立で排泄が可能な人には、必要なことだけ介護を行い、プライバシーに配慮して、排泄中は外で待機しています。自宅でリハビリパンツを使用していた人が、入居後に失禁パンツとパットで対応し、布パンツに改善した事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	主治医へ相談し薬での調整や毎日ラジオ体操とフロアを歩く運動を実施しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人で入れる人は無理に介入せず安全確認を行う程度でゆっくりと入浴してもらっています。その方に合った対応にて入浴を実施しています。	入浴日は月曜から土曜日までの午前中で、週に2回入っています。入浴を拒否する人には、日にちをずらすなどの工夫をしています。入浴の都度、湯の半分を新しく入替え、温度を保ち、入浴剤も使ってリラックスしてもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	安眠が取れるような環境づくりを行っています。就前薬の服用が必要な方には先生に相談し処方しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診前にFAXにて情報提供を行っています。職員には順番で担当してもらっています。情報提供することで薬の把握やその方の状態を観察するようになります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	趣味や嗜好品など希望によって対応しています。庭に出て咲いている花を見て摘んで居室に飾るなどここで対応しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出は現在実施していません。	コロナ禍で外出が困難であるために、敷地内の庭に出て、季節の花を楽しんだり、ティータイムを庭先で過ごすなどして、気分転換を図っています。外出を希望する利用者も多いのですが、現在は命を守ることを最優先に考えて、遠出を自粛しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣い程度の現金を持っている利用者様もいます。希望によっては一緒に買い物に行ったりと以前はしていましたが、現在は外出ができないため職員が買い物に行きます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自分で管理できる人は携帯を持参し好きな時に好きなだけ電話をしてもらっています。できない方へは月の様子など写真を貼りコメントでお知らせしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	静かな環境づくりを行っています。コロナ対策で1日2回の消毒を実施し感染対策を行っています。	認知症は音にも敏感で、不穏になりやすい事もあり、静かな環境づくりを心がけています。食器洗いや物を置く際の音、職員同志の会話にも気を配っています。共用空間は、1日3回の消毒と、朝と夜間帯にモップで床掃除を実施しています。換気も常時行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室なので自分の時間が欲しい方は自室にて過ごしています。フロアで過ごしている方もいたりと自由に好きなところで過ごしてもらっています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自分のお部屋は自由にコーディネートしてもらっています。過ごしやすい環境を作ってもらうように使い慣れた家具など持参してもらっています。	介護ベッド、カーテン、クローゼット、エアコンが備わっています。利用者は衣類、好みの家具、日用品などを持ち込んでいます。毎朝早番の職員が、居室のモップ掛けを行っています。居室担当者は整理整頓、衣替え、居室の大掃除などを担当しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	生活の場なので破損や劣化など生じます。都度業者へ連絡し改修し安全に生活出来る様対応しています。		

事業所名	グループホーム幸せふくろう万田
ユニット名	くすのき

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある
	<input type="radio"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	3, たまにある
	<input type="radio"/>	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/>	2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	3, たまに
	<input type="radio"/>	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/>	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/>	3, あまり増えていない
	<input type="radio"/>	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/>	2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/>	2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	メディカルライフケアも理念は地域社会に貢献することを意識して作られています。職員にも月1回のミーティングの前に唱和しています。行動指針の内容を把握し業務にも反映出来るよう取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナで外部との関りは全くありません。職員は月に1回（第4日曜日）に隣の公園や道路の草むしりなど行い地域貢献に取り組んでいます。自治会にも加入しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	インスタグラムなどに、GHで暮らしている方々が家事をしたり工作している姿をビデオや写真で投稿し認知症の方でも支援があれば出来ることがたくさんあることを伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	外部の方を呼んでの開催は出来ていません。併設の小多機と実施している状況。エリアの包括にはFAXなどで情報提供を行ったり、ふくろう通信を送り取り組みについて報告しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	直接の訪問は避けています。電話にて分からない事やコロナ対策についてなど情報を頂くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	施設の施設は最小限にしています。3ヶ月に1回、身体拘束委員会をミーティング時に行っています。職員の対応を振り返りながら事例をもとに自分たちのケアを見直す機会を作っています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止法についての研修を社内にて実施し参加しています。学んだことを事業所の職員にも資料など回覧し伝えるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見人がついている利用者様がありました。職員も関りながら役割を理解していました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に詳しく説明し分からない事疑問点など最後に確認をしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月1回のミーティングや職員向けのアンケートを実施している。会社に対しての意見や改善して欲しいことなど自由に記載できるアンケートです。年に2回職員との面談を実施しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に1回ご家族宛てにアンケートを行っています。率直なご意見など運営にあたり参考にさせて頂いています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	評価制度を実施しています。施設全体の目標と個々での目標をたて3ヶ月刻みで評価しています。面談を実施しながら必要に応じて勤務改善や業務内容など検討し働きやすい環境を作るように取り組んでいます。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修や資格の取得など積極的に自分のスキルやキャリアアップを目指してもらうよう会社全体で支援を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	社外の職員との交流は控えています。社内でもリモートで研修を行いなるべく接触しないようにしています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前にご本人との面談を実施しています。本人がどんな生活を望んでいるのか可能な限りアセスメントをし情報収集を行っています。趣味や習慣など把握し入所してから継続出来る様取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	御家族とも面談を重ね、意向の確認を行っています。多くの情報を収集するためにも何度か面談を実施し、信頼関係を築くよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所を希望されても、アセスメントを行っている段階で見極め、違うサービスを提案することは結構あります。その方の状態や家族の色々な条件などで他のサービスの提案も視野にいれ話を聞くようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることは職員と一緒に取り組んでもらうようにしています。家事や調理の補助、物づくりなど出来ることを一緒に取り組んでいます。忙しい時は助けてもらっています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族にも出来ることは支援をしてもらっています。リモートでの面会や通院など家族にも協力をお願いしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの友人との関りはほとんどありません。外出もできないため馴染みの場所に行くこともできていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立することが悪いことではありません。その方が同生活したいかを優先しています。レクにも参加していただければ無理に参加を促しません。自分らしく過ごせるようにと考えています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了してからこちらから連絡を取ることはありません。ご家族からの相談があれば対応するようにはしています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を尊重できるよう取り組んでいます。個別のレクなども実施し集団でのレク以外の提案もその方に併せて行うようにしています。生活面でも縛らず自由に過ごしてもらっています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメント表を職員へ回覧し情報を共有しコミュニケーションを図ります。会話の中で昔の思い出話など聞きながらその方の趣味趣向など把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の利用者様との関りのなかでその方の生活スタイルを把握しています。心身の状態は変化しやすくその都度対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	常に課題分析し現状のケアのあり方をカンファレンスし検討しています。本人・家族からの意見を聞く事が難しく職員の意見を中心に検討してしまっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録へ日々の様子など記録を行っています。状態の変化やヒヤリなど活用し共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	多機能に対応できていません。人員的に難しく、既存のサービスを実施することでやっとの状況です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源との協働は現在難しい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医が月に2回訪問する。必要に応じて本人・家族とのムンテラなど実施し今後の治療方針や意向を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設に看護師の配置はなく。往診の看護師と急変時や対応の指示などもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院側との情報交換は積極的に行っています。退院に向けての受入が可能かの判断も慎重に相談し決めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医と家族、施設とで相談し最良な判断が出来る様相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	社内研修にて技術研修を行っている。応急処置や救急救急要請など実践的な研修を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の訓練を実施し、水害時や地震などを想定し訓練している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	主導的な発言がある。尊重した対応が完璧に出来てはいないが、心がけ手は行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常に傾聴し本人の気持ちを確認するように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	どうしても業務が中心になってしまうことがあります。一人ずつの意向を尊重することは難しいですが、なるべく気持ちに寄り添えるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類が古くなったり衣替えなど家族にも協力をもらい身だしなみをと戸の得るようにしています。本人の趣味趣向を配慮し家族へ対応をお願いしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎月リクエストランチでは利用者様の食べたいもの用意しています。おやつレクでは一緒に作り楽しんでいきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	先生の指示により食事量の調整や水分管理を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科の定期的な訪問でケアの指示をもらい実施しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要に応じておむつ、リハパンの提案を行っています。自宅ではリハパンを使用していた人がGHに入所し布パンに変更になった利用者さんもいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	主治医へ相談し薬での調整や毎日ラジオ体操とフロアを歩く運動を実施しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人で入れる人は無理に介入せず安全確認を行う程度でゆっくりと入浴してもらっています。その方に合った対応にて入浴を実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	安眠が取れるような環境づくりを行っています。就前薬の服用が必要な方には先生に相談し処方しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診前にFAXにて情報提供を行っています。職員には順番で担当してもらっています。情報提供することで薬の把握やその方の状態を観察できるようになります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	趣味や嗜好品など希望によって対応しています。庭に出て咲いている花を見て摘んで居室に飾るなどここで対応しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出は現在実施していません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣い程度の現金を持っている利用者様もいます。希望によっては一緒に買い物に行ったりと以前はしていましたが、現在は外出ができないため職員が買い物に行きます。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自分で管理できる人は携帯を持参し好きな時に好きなだけ電話をしてもらっています。できない方へは月の様子など写真を貼りコメントでお知らせしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	静かな環境づくりを行っています。コロナ対策で1日2回の消毒を実施し感染対策を行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室なので自分の時間が欲しい方は自室にて過ごしています。フロアで過ごしている方もいたり自由に好きなところで過ごしてもらっています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自分のお部屋は自由にコーディネートしてもらっています。過ごしやすい環境を作ってもらうように使い慣れた家具など持参してもらっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	生活の場なので破損や劣化など生じます。都度業者へ連絡し改修し安全に生活出来る様対応しています。		

2021年度

事業所名グループホーム幸せふくろう万田

作成日：令和3年8月17日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	法人内の研修への参加率が悪い。リモート研修で自宅でも参加できるようにしているが、毎回同じ職員が参加している。	今まで研修に参加しない職員にも参加してもらえるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リモートの操作方法を詳しく教える。</li> <li>・当日参加できなくてもビデオ研修での参加を促す。</li> <li>・勤務時間でも参加できるプチ研修を実施する。</li> </ul>	12ヶ月
2	36	職員の主導的な発言やケアがある。	利用者へ寄り添える、ゆとりあるケアを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務にゆとりを持ってもらうよう、人員配置やタイムスケジュールを検討・改善する。</li> </ul>	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月